

平成19年5月14日 臨床WG
資料1-3-2-1

塩酸アマンタジンに係る異常な行動が記録されている事例
(平成10年11月(効能追加)～平成19年4月27日に第一報報告があったもの)

No.	識別番号	性	年齢	1日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
1	C98-18236	女	9■歳		ジアゼパム スピロラクトン シルニジピン 塩酸プロピペリン ジゴキシン アルファカルシドール	激越 幻覚 言葉もれ 錯乱状態 独語 不安	死亡 不明 不明 死亡 不明 不明	軽度の高血圧、心不全、神経因性膀胱で加療。 アマンタジン投与開始5日目、目がらんらんとして興奮状態になり幻覚症状によりベッドの下をのぞき込む動作が何度も見られた。 投与7日目朝、ベッドの柵をはずし、たちあがり、不穏状態。 投与8日目朝、ベッドから転落、顔部裂傷・打撲、右手打撲。 投与9日目朝、ベッド上座位にしてもすぐに横にくずれる。 投与10日目朝、ベッド上ぐるぐる回りベッドのさくに顔をはさんだり、体動が激しくなって、独語が多くなる。 投与11日目午後、多弁、ベッド上体動が激しい。本剤投与中止。その夜中も入眠せず体動が多い。 投与中止2日目朝、多弁で体動が活発、ベッドから降りようとする。 投与中止4日目朝、訪室の際に、ベッドの鉄さくの間より頭～肩～腕を突っ込んで上半身垂れ下がった状態で発見される。呼吸停止、顔面(四肢)のチアノーゼ著明。3時間後、永眠
2	C99-18560	男	■歳		アミノフィリン セフトリアキソンナトリウム ツロブテロール 塩酸シプロヘプタジン 塩酸アンブロキシール アセトアミノフェン メフェナム酸	意識レベルの低下 激越 錯乱状態 振戦 排尿困難 不眠症	回復 回復 回復 回復 回復 回復 回復	A型インフルエンザで前進状態が悪く入院。塩酸アマンタジンなど投与開始。翌早朝から、悪寒あり。意識は清明。その後、上肢のふるえ、全身倦怠感あり。本剤投与中止。 午後、それまで眠っていたが急に興奮してベッド上で暴れまわる。訳のわからないこともいっている。上肢のふるえなし。アミノフィリン中止、強制利尿させる。夕方、落ち着く。
3	G02-4656	女	■歳		ファロベネムナトリウム クラリスロマイシン 硫酸セフピロム	言葉もれ 好中球減少症 情動障害 注意欠陥多動性障害 注意力障害	回復 回復 回復 回復 回復	インフルエンザと診断し、塩酸アマンタジン内服開始。 投与4日目、学校で朝礼中に角の方へ突然フラフラと歩く。帰宅後口腔内に異物をくわえているのを父親が見つかる。 投与5日目、本剤中止。 投与中止2日後、情動失禁、多弁、多動見られる。

No.	識別番号	性	年齢	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
4	G03-2033	男	3■歳	マレイン酸フルボキサミン セフジニル 塩酸アンブロキシール 酸化マグネシウム	錯乱状態	回復	A型インフルエンザを疑い、塩酸アマンタジンなど3日間投与。 投与終了2日後、物忘れがひどい、集中力がない、仕事に支障が出ているとの主訴で受診。その夜、自宅で急性錯乱状態となる。 自らおかしいと警察へ通報し、警官に付添われ当院精神科病院を受診。急に外へとび出そうとする等がみられたことから、入院となる。 入院翌日、落ち着きが見られた。(症状軽快)
5	B06008363	男	1■歳	リン酸オセルタミビル	自殺既遂	死亡	塩酸アマンタジンを処方されていた患者が自殺した。
6	B06026877	男	1■歳	アセトアミノフェン	異常行動	軽快	インフルエンザと診断し、塩酸アマンタジン投与。その4時間後、自宅2階へ上がり、ベランダから柵に足をかけ飛び降りようとしていたため引き止めた。夜、解熱し、意識状態全く正常であった。 投与開始2日目、本剤服用しているが、異常行動はみられていない。